

Oisix ra daichi

Future Food Fund

投資 × フードテック

オイシックス・ラ・大地株式会社 取締役経営企画本部長
松本 浩平

2022年12月16日

プロフィール



松本 浩平

Kohei Matsumoto

オイシックス・ラ・大地株式会社 取締役 経営企画本部長
Future Food Fund 株式会社 代表取締役

2008年 オイシックス株式会社（現オイシックス・ラ・大地株式会社）入社

2018年 オイシックス・ラ・大地株式会社 取締役就任（現任）

2019年 Future Food Fund株式会社設立 代表取締役就任

香港向けのEC事業立ち上げ、その後株式会社リクルートとのJVの設立、コンサルティング事業の立ち上げ、メディア事業の立ち上げなど、事業開発を中心に活動。

2012年より、IPO準備のため経営企画部へ異動し、IPOプロジェクトの主要メンバーとして活動。2013年IPOを実現後、IRも担当。上場後は、全社の予算策定や予実管理、社内コミュニケーション改善、IR、事業提携などを担当する。

2013年オイシックス株式会社のIPOの実現、その後、株式会社大地を守る会、らでいっしゅぼーや株式会社との経営統合を実施する。

2019年CVC、Future Food Fund株式会社を設立する。

オイシックス・ラ・大地(株)会社概要

会社名	オイシックス・ラ・大地株式会社(英名: Oisix ra daichi Inc.)
所在地	東京都品川区東京都品川大崎1-11-2 ゲートシティ大崎 イーストタワー5F
設立	2000年6月
代表者	代表取締役社長 高島 宏平
資本金	3,993百万円(2021年3月末)
事業内容	ウェブサイトやカタログによる一般消費者への有機野菜、特別栽培農産物、無添加加工食品等、安全性に配慮した食品・食材の販売
従業員数	連結 915名(2021年3月末)



オイシックス・ラ・大地(株)会社概要

Oisix ra daichi

有機・特別栽培野菜、添加物を極力使わない加工食品など安心・安全に配慮した食品の定期宅配サービスを提供。2000年創業のスタートアップです。

宅配事業



主要事業として、国内で3ブランドのサブスクリプション食材宅配サービスを運営

- 売上高 1134.7億円 ● 営業利益 41.7億円(2021年度実績)
- サブスクリプション会員数 約457,000人
- 農産品生産者数 約4,000軒
- Purple Carrot(アメリカ)売上高 107億円
(2022年3月末)

その他事業

海外

PURPLE CARROT



Oisix HK

愛宜食
Oisix

Oisix 上海

● NIHON AGRI, INC.

ソリューション

ISE TAN
DOOR

dミールキット

powered by Oisix

リアル店舗

DEAN & DELUCA



Shop in Shop

その他



Crazy Krenowl

豊洲産直市場

兼の食の会
GRT. QUALITY OF LIFE

Future Food Fund

主要事業のビジネスモデル

主要事業は、独自基準に基づいて厳選した安心・安全な食品を、
日本全国約40万世帯のお客様にお届けするサブスクリプション型食品EC業



ビジネスモデル・テクノロジーの活用



Future Food Fund(株)会社概要

Future Food Fund

2019年8月 オイシックス・ラ・大地株式会社の、ベンチャー投資を行う GP子会社として設立

名称	Future Food Fund株式会社
設立日	2019年8月28日
資本金	1500万円
株主	オイシックス・ラ・大地株式会社(100%)

実現したい未来

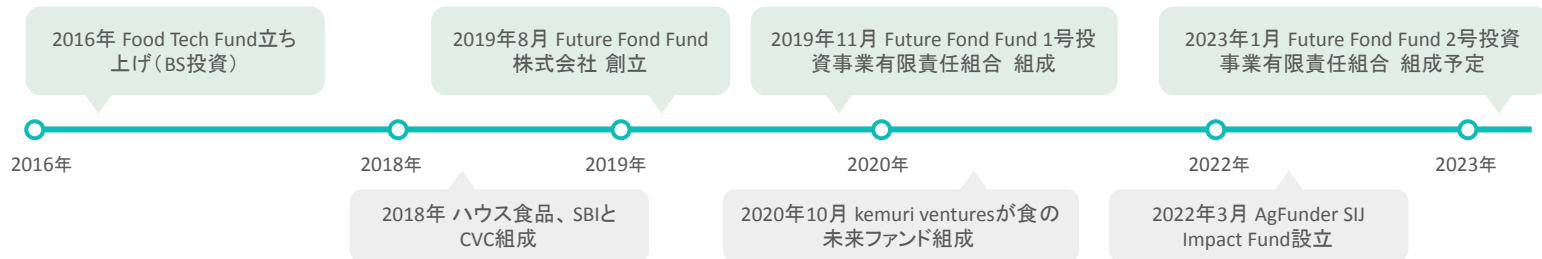
食のスタートアップエコシステムを日本にも作り出す

日本でも、食のスタートアップが多く活躍する世の中を作る

事業会社が、スタートアップと協業することで成長できる環境を作る

Future Food Fund 1号投資事業有限責任組合 2019年11月組成 ファンドサイズ 20億円

Future Food Fund 2号投資事業有限責任組合 2023年1月組成予定 ファンドサイズ 30~40億円



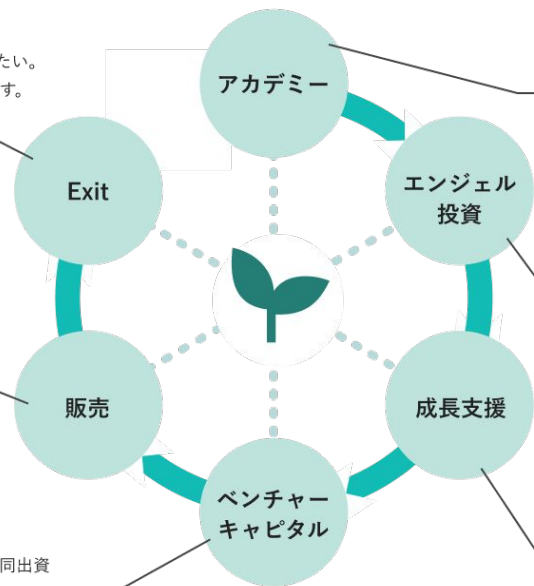
食のベンチャーエコシステム

私たちのファンドの目的は、スタートアップが起業し成長する“スタートアップエコシステム”を作ること。他のVC以上に、成長支援と事業提携に力を入れています。

米国でも主なExit戦略はM&Aが多い。
日本ではまだまだ市場ができていないが、FFFの活動を通して、Exit市場の創出を行いたい。
※2号ファンド組成後の主要課題として取り組みます。

- ・クラフトマーケットによる販売支援
- ・LPによる販売支援

- ・当ファンドでの投資
- ・食領域へ投資するVCへの案内、共同出資

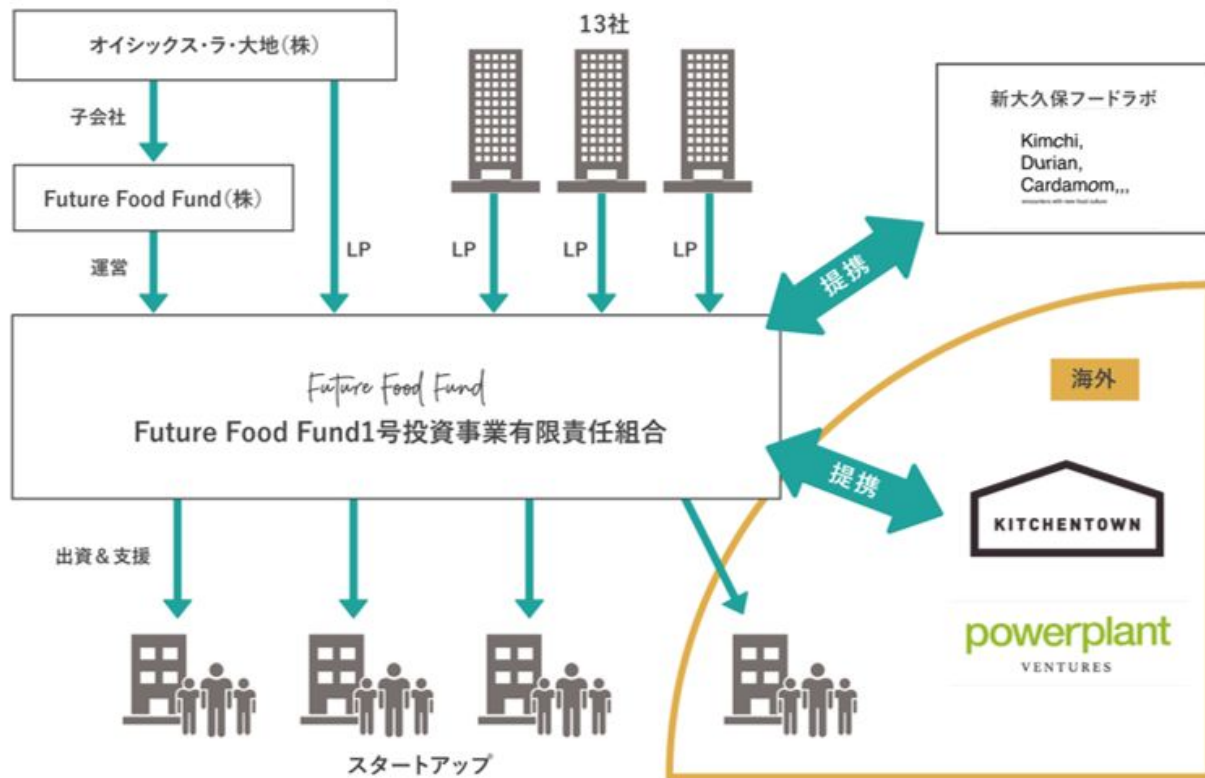


- ・東工大初ベンチャーAiwellへ投資
- ・明大初アグリテックベンチャー ルートレックネットワークス社へ投資
- ・UCバークレーのスタートアップImpact Foodsへ投資

- ・KITCHENTOWNとの提携により、米国のシードスタートアップとの接点獲得
- ・K,D,C,,によるシードスタートアップとの接点獲得
- ・CAMPFIRE社との協業によるシードスタートアップの掘り起こし (ピッチイベントの開催)

- ・K,D,C,,の活用によるシード段階スタートアップの支援
- ・クラフトマーケットでの販売支援
- ・LPによる販売支援
- ・LPによる製造支援

組織体制



Future Food Fund(株)会社概要

Future Food Fund株式会社

ファンド運営子会社
(オイシックス・ラ・大地(株)100% 子会社)
代表取締役/General Partner 松本浩平

1号ファンド

- 2019年組成
- 14社から20億円の調達
- 15社へ投資
- IRR 25%(2021年度末実績)

2号ファンド
















- 2023年1月組成予定
- 30~40億円の規模
- 現在LP募集中

出資元(LP)

		
大和フード&アグリ		
		
		
		

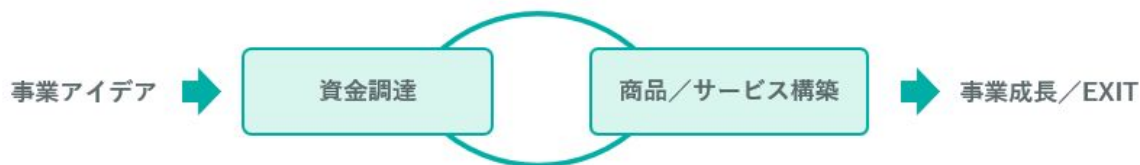
投資先(スタートアップ)

一部

フードテックエコシステムの特長

当社の創業時の経験などを活かし、単なる投資活動にとどまらず、LPとして参加する事業会社のプラットフォームなどを最大限に活用して、幅広く支援を行うフードテックエコシステムを構築。



スタートアップの事業成長を包括的にフォローし、事業成長スピードを大幅に加速させる

多様な事業会社LPの
アセット・ノウハウの活用

販売	輸入・物流
 	
 	インフラ
	 

実績あるアメリカのVC、
インキュベーターとの連携・支援



スタートアップ専門売り場を
活用したサービス実験



参考)グリーンカルチャー社への出資

植物肉開発のスタートアップへ出資。オイシックス・ラ・大地／Future Food Fundは、サステナブルリテール戦略でのシナジーを期待し、アセット支援による新技術の早期実用化をめざします。

評価のポイント

- ✓ 商品の完成度の高さ
- ✓ 経営者のビジョンへの共感

期待すること

- FFFに加入するLP企業様や、ORDによる製造・販売・マーケティングの支援による成長の加速
- 原料をミールキット化して、潜在的なニーズを引き出し、プラントベース市場の成長を促進



 **Green Culture**

「健康と地球とずっと。」をテーマに掲げ、サステナブルな未来を作るため、植物肉の開発・製造・販売を行う

参考) インテグリカルチャー社への出資

環境・食糧問題の解決に向け、培養肉開発のスタートアップへ出資。

畜産品：生産量、カーボンニュートラルの問題等

水産品：資源管理の問題等



顕在化した問題の解決策の一つとして、培養肉が期待される



独自開発の細胞培養技術を用いて、培養フォアグラや化粧品原料の研究開発を行う

Future Food Fundからの投資により、安全性の高い培養肉の研究をリードし、より良い未来の食生活の実現につなげたいと考えています。

参考)株式会社MiLへの出資



投資先MiL社とOisixのベビー&キッズコースで協業し、Kindest監修の離乳食や幼児食を販売。サブスクInサブスクの形で、1億円/年が期待される商品となっています。今後は、同様の事例を他のLPの皆様とも進めていきたいと考えています。



1. グローバル資金調達の傾向

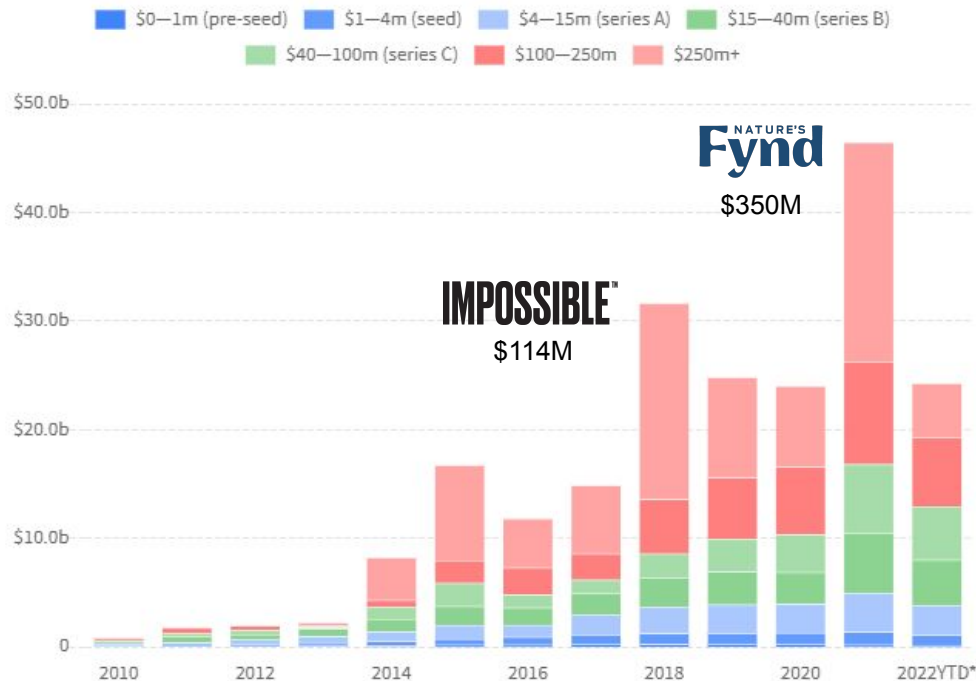
2. ピックアップ領域

- a. フード × ヘルスケア
- b. 代替たんぱく
- c. デリバリー
- d. 通販
- e. アップサイクル
- f. 農業と水産テック

3. 国内のフードテック現状

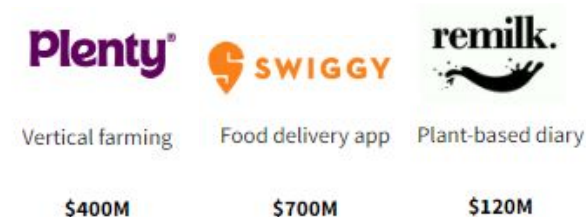
- a. エグジット事例
- b. 投資状況

1. グローバル資金調達傾向(2010年～2022年現在)



出典: Dealroom

2022年の大規模資金調達



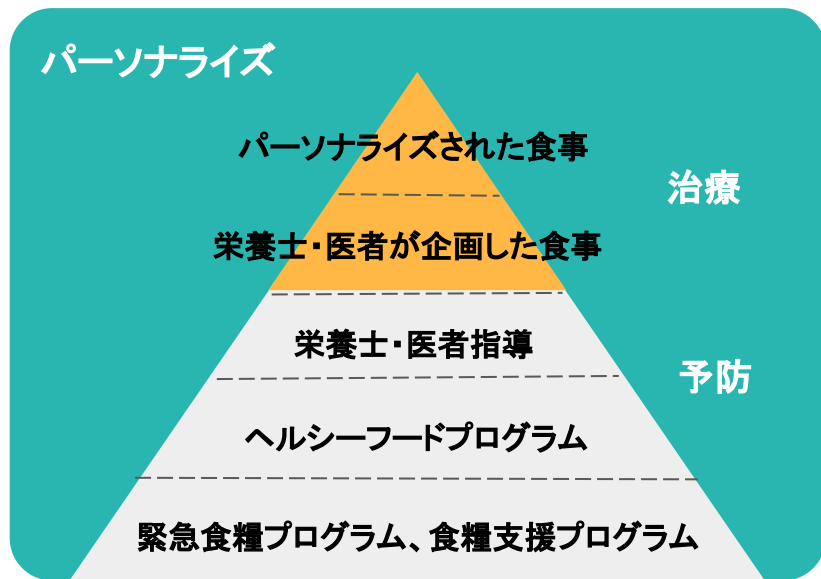
2022年の調達額ランキング

- 1位 デリバリー \$4.6B
- 2位 ネットスーパー \$1.5B
- 3位 代替たんぱく質 \$1.1B

上場フードデリバリー会社の株価は下落してきたが、投資家はまだ堅調

a. フード × ヘルスケア

① Food As Medicine



機能性表示食品 例: 栄養補助食品

② Gadgets

例: 健康管理ウォッチ



③ Service

例: 食事管理アプリ



Campbell

缶スープで有名な企業が自宅でのDNA検査スタートアップに**\$32M**を投資



habit
FOOD, PERSONALIZED

Royal DSM

オランダに本社を置く化学企業がパーソナライズ飲料家電Mina社の50%株式を取得



SEASON

Season Health

- 糖尿病と肝疾患に特化したパーソナライズ栄養データに基づいて、献立企画支援
- 起業社Hix氏はミールキット会社Platedの旧CEO
- Series A \$34M USD 調達





Bright Seed

- 自然の生理活性物質とその健康上の利点を特定するAI駆動の計算プラットフォームを開発して、製薬・農業などに活用する
- Series B \$68M調達、Valuation \$300M想定



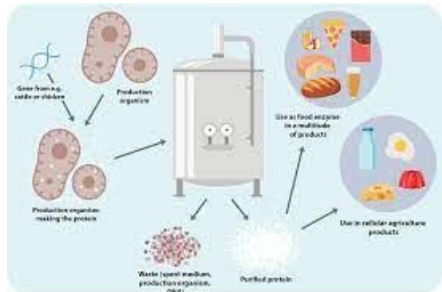


ライフログテクノロジー 株式会社

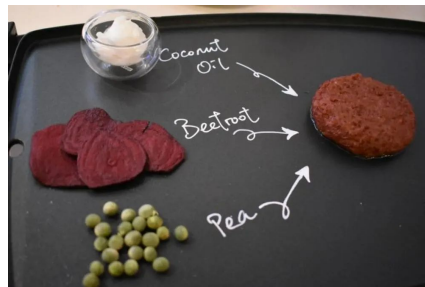
当社のサービス「カロミル」は、独自開発のAI技術で、食事の写真から料理名やカロリーの他、18種類の栄養素データを解析。



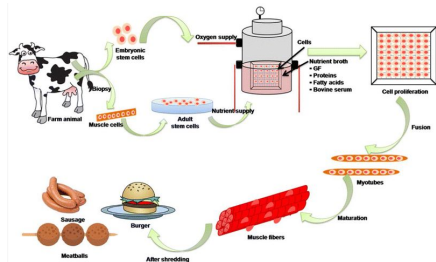
b. 代替たんぱく



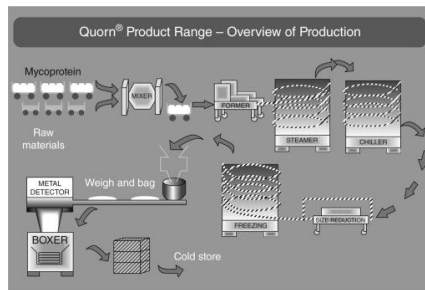
精密発酵



プラントベース



細胞培養



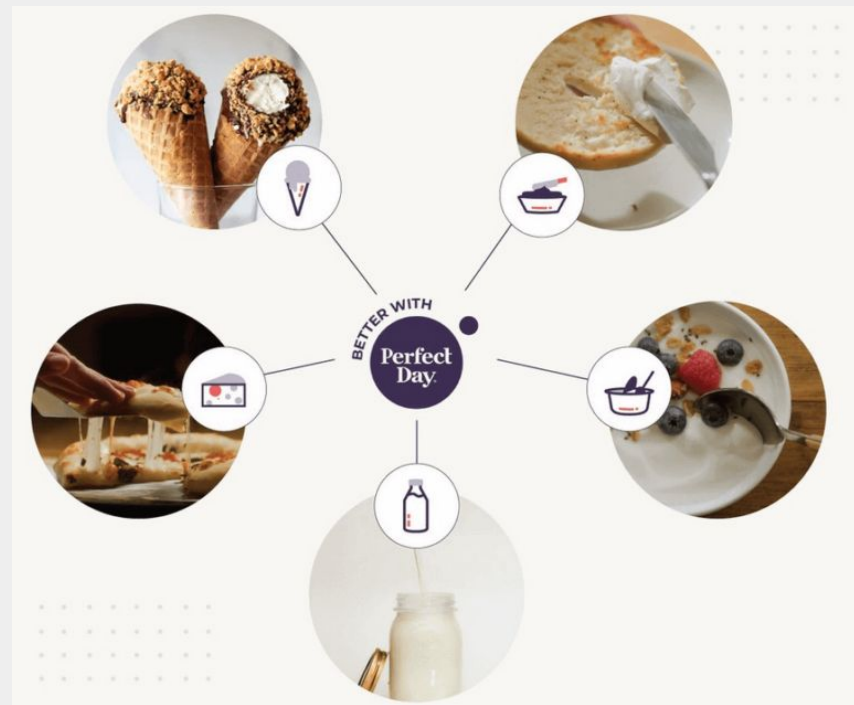
菌類(菌糸体)

代替たんぱく:精密発酵



Perfect Day

精密発酵による乳たんぱく質を使ったアイス
クリーム、クリームチーズ、ケーキミックス、ス
ポーツ製品を販売



代替たんぱく:細胞培養肉



Upside Foods

培養肉などさまざまな細胞農業製品を生産する施設
の開設を発表。

NEWS

FDAは、UPSIDE Foods社が提出した鳥の細胞データを調査、培養肉は安全に食べられると認定した。

FFF
投資先



代替たんぱく:シーフード



Impact Food

植物由来の原料から、マグロの刺身をはじめとしたプラントベースの海洋動物タンパク質を開発している。

FFF
投資先



代替たんぱく:菌類(菌糸体)

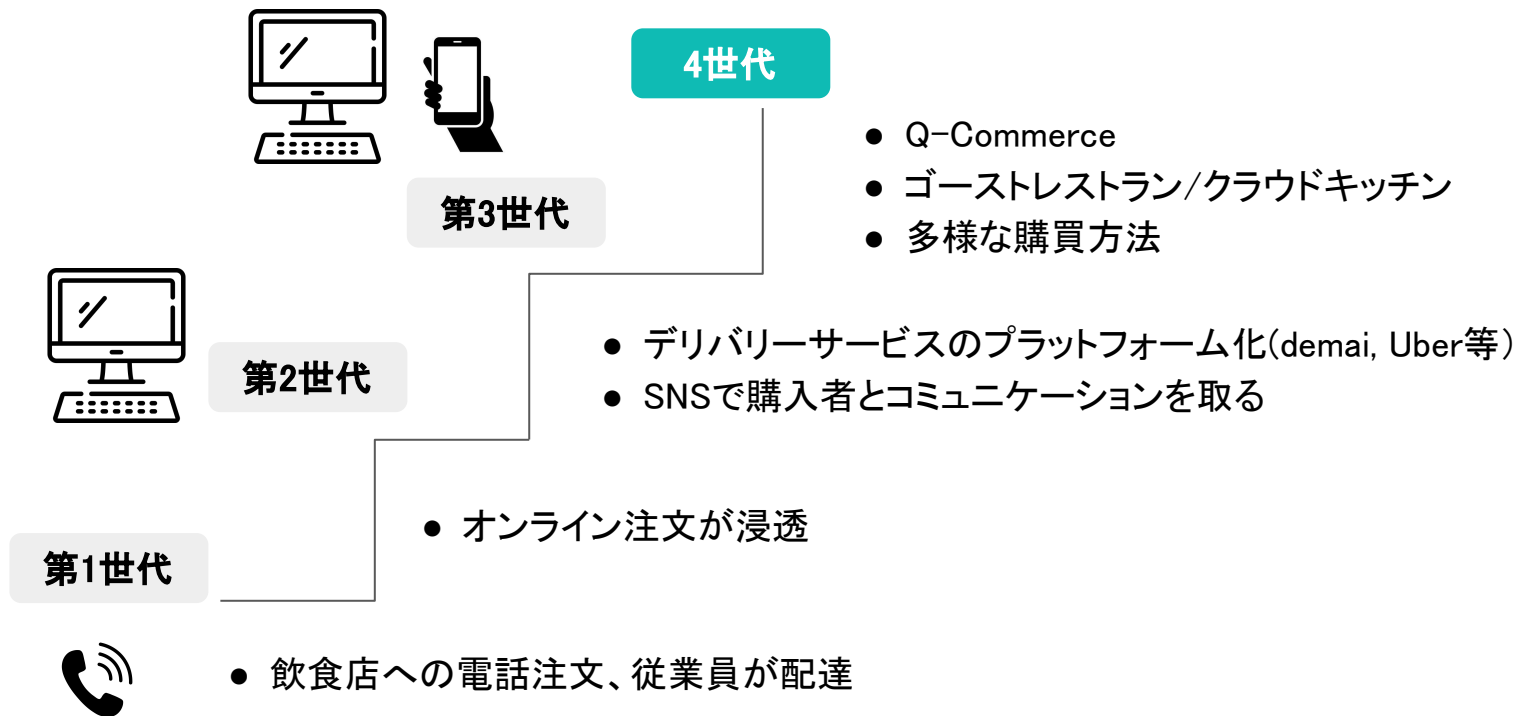


Prime Roots

麴菌を使って菌糸体を栽培し、代替たんぱく質の食肉を製造している。



c. デリバリー

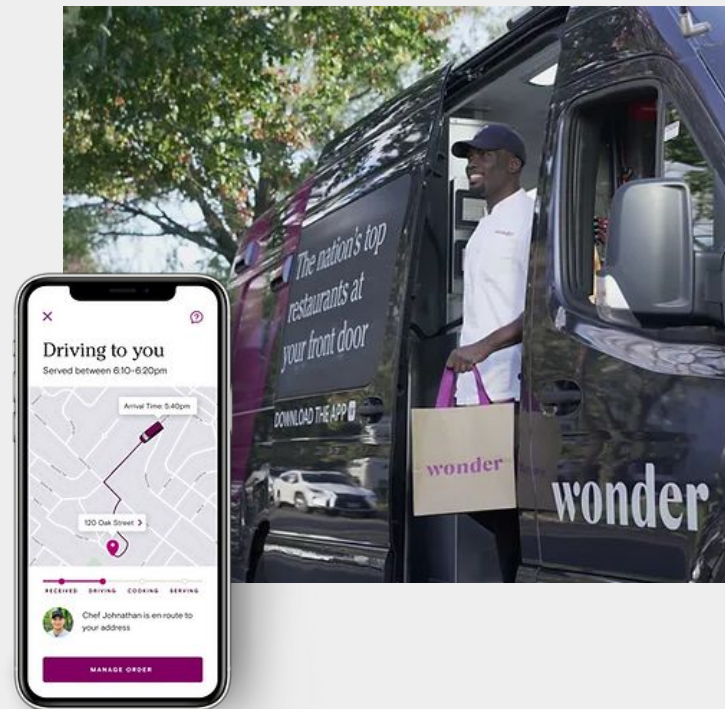


デリバリー

wonder

Wonder

- 注文後、シェフがトラック内で真空調理器や特製オープンなどの機器を使用して食事を仕上げ、家の前で食事を完成させる。
- 時価総額 \$3,500 mil.

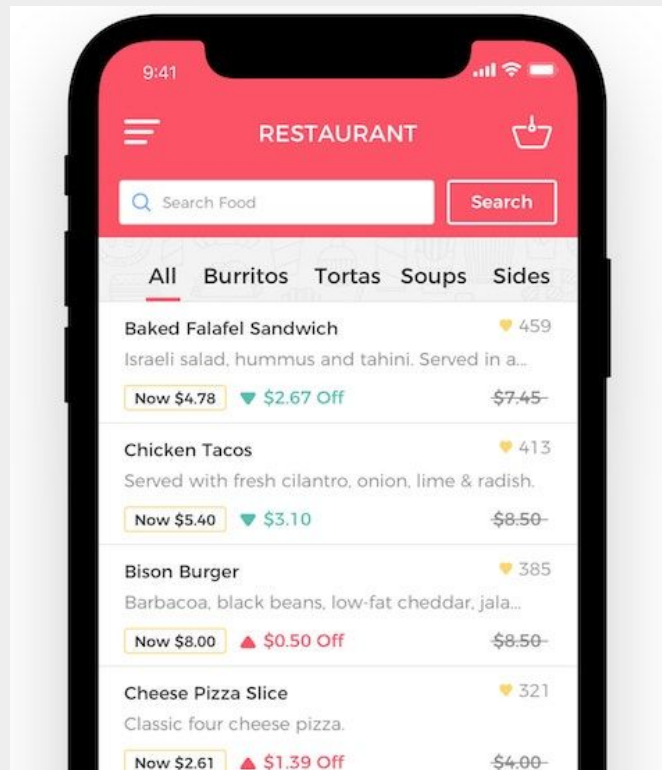


デリバリー



Gebni

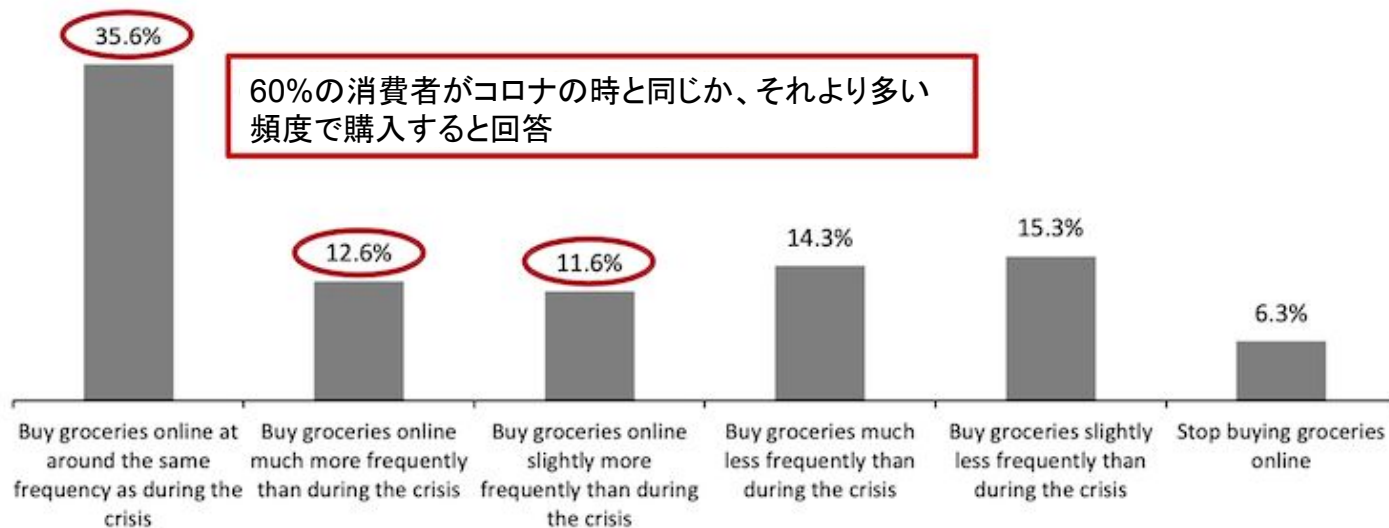
オフピーク時間に、飲食店がダイナミックプライシングで売れ残りそうなメニューを値下げすることによってロスを減らす。
アプリのユーザはお得に食事を買える。



d. 通販

米国消費者「アフターコロナにおいて、どのような頻度でネットスーパーで買い物をする？」

※パーセントは回答者の割合



Base: 975 US Internet users aged 18+ who had purchased groceries online in the past 12 months

Source: Coresight Research

通販

MARKET
Kurly

Market Kurly

- 韓国の翌日グローバルデリバリー
- 2021年売上 \$1.19 B USD
- IPO準備中



通販

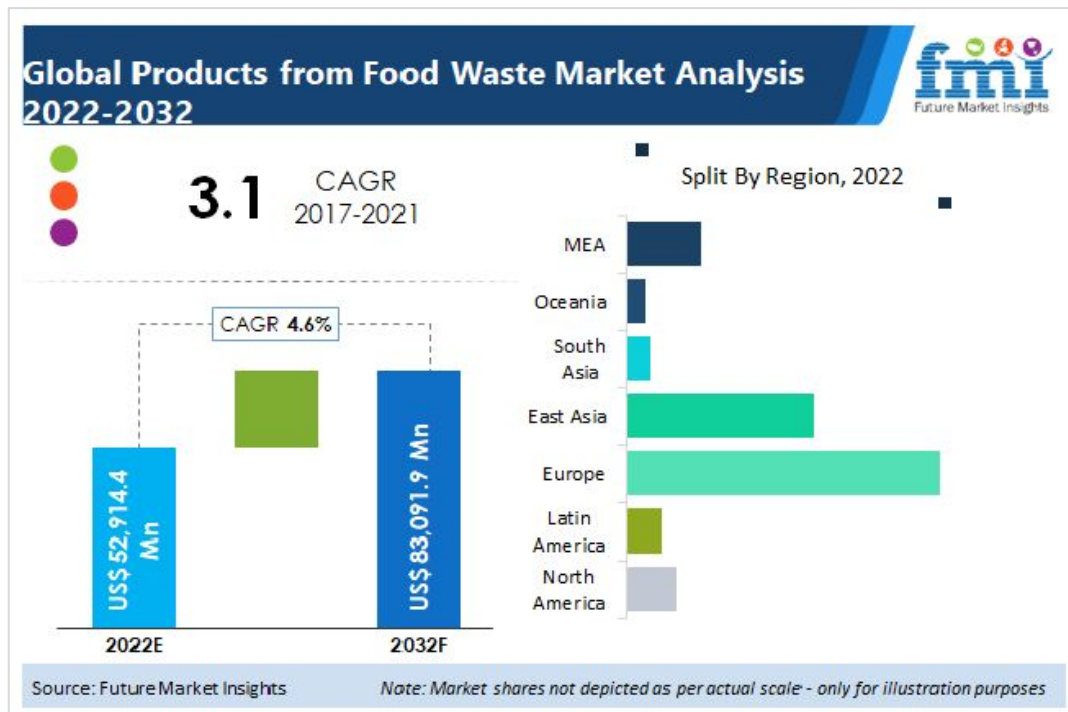
箱 BOKKSU

Bokksu

- 日本産のお菓子のD2C定期宅配サービス
- Series A時の時価総額 \$100M



e. アップサイクル



ヨーロッパは、食品廃棄物から作られた製品の消費量が最も多く、世界の45%近くを占めています。

GOOD FISH

Good Fish

- アラスカサーモンの皮をパリパリに揚げた、サスティナブルで健康的なスナック
- 健康と美容の側面に注目
 - タンパク質: 7g
 - コラーゲン: 2600mg
 - オメガ3: 800mg
 - 炭水化物: 0g
 - カロリー: 90



アップサイクル



KAFFE
BUENO

Kaffe Bueno

コーヒーの副産物を構成分子に分解し、さまざまな業界向けに健康増進成分を生成することにより、コーヒーの健康食品としての可能性を最大限に引き出します。



アップサイクル

Grounded

Grounded Foods

不揃いや規格外のヘンプとカリフラワーを使い、独自の発酵プロセスで、乳製品の味と食感を模倣しています。

麻とカリフラワーのベースは、ナッツと乳製品の両方に敏感な人に最適です。



原料ピックアップ: 藻類

ウェルネスやトレンドメディアからWhole Foodsトレンドとして注目されています。



Seaweed Will be a Huge Trend in Wellness This Year

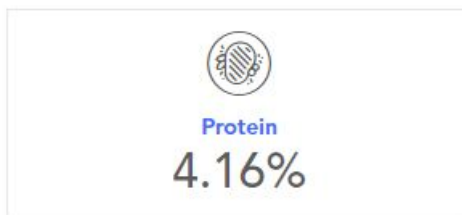
Love seaweed? You actually gain a lot of benefits from snacking on this yummy treat, or incorporating it in your beauty and wellness routine!

WELL + GOOD

Step Aside, Kale: In 2022, Your Favorite Form of Leafy Green Won't Grow on Land



Most Popular Seaweed Related Motivations ⓘ



海藻！

12tides®

12 Tides

- USDA有機認証の再生農業で栽培された昆布からできているパフチップス
- Amazon評価



海藻！

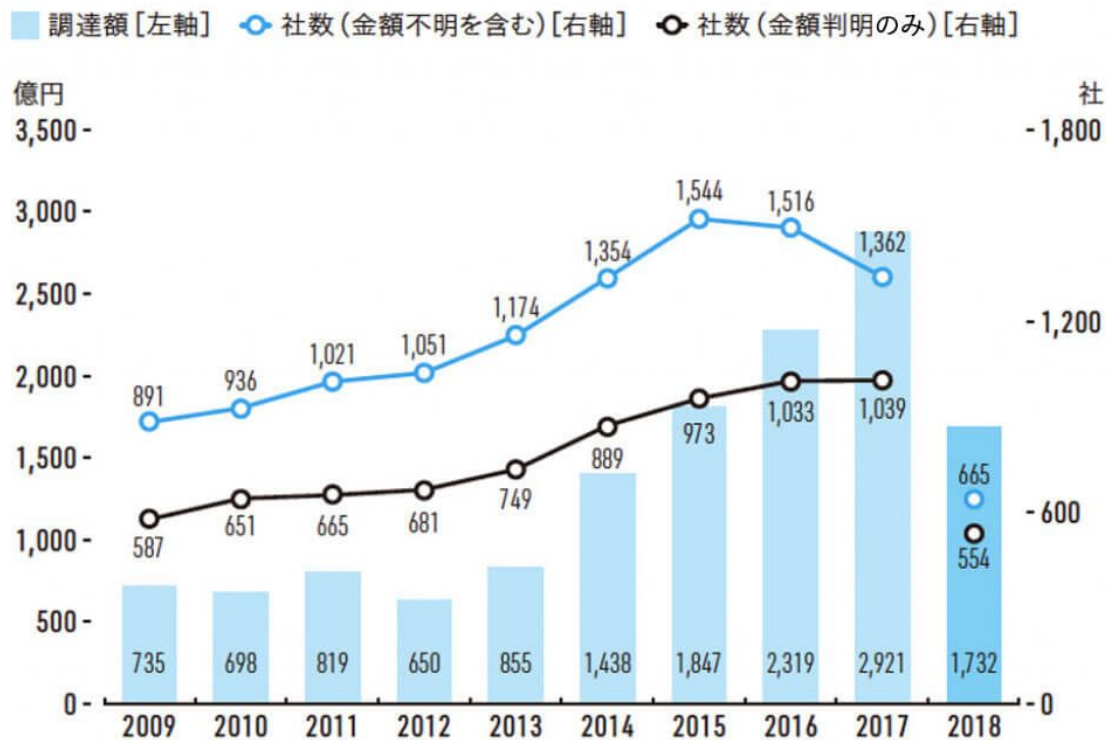


Akua

海藻類(昆布)に加え、マッシュルームや
エンドウ豆に、黒豆、キノア、トマトの代替
肉製品をB2C,D2C販売

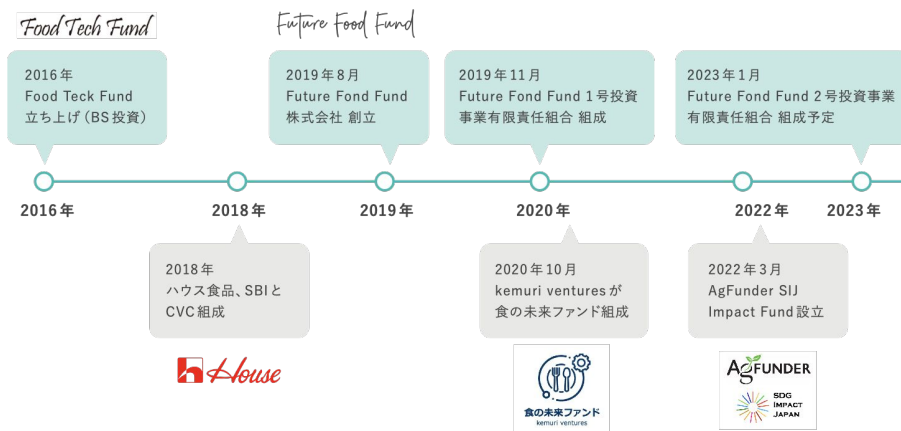


3. 国内スタートアップが増加



出典: Forbes Japan、全領域

CVC立ち上げまでの年表



Oisixは、2000年創業のECでの野菜販売を行うスタートアップ。事業拡大に向けたリサーチのため、ベンチャー投資を開始。

2016年 Food Tech Fundを立ち上げ、ベンチャー投資を加速するが、BSからの投資ということで減損が発生するため問題になる。

並行して、大地を守る会、らでいっしゅぼーやの経営統合を進めたため、少額投資の活動は縮小。

2018年 経営統合後改めてスタートアップ投資を開始。再開にあたり減損の問題回避と、スタートアップエコシステムの構築促進のため他の食品事業会社の投資も受けてVCを設立し、投資活動を加速する。

日本のエグジット事例(2022年)

M&A



**VIRTUAL
RESTAURANT**
USEN-NEXT GROUP



IPO



ベースフード(2936)